



デング熱患者最新データ

香港衛生署 www.chp.gov.hk 2015-10-30

香港衛生署衛生防護センター (CHP) は、本日 (10月30日)、デング熱患者の最新情報を発表し、市民に対し、香港でも外地に出ても、衛生環境に注意し、防蚊と個人防御措置をとるようと呼びかけている。

10月23日～29日の間、CHPは確診患者5名が報告されているが、全て外地からの輸入症例であり、患者は潜伏期間内に香港(2名)、タイ(2名)、ベトナム(1名)にいた。

昨日(10月29日)までに、本年は合計95名のデング熱患者が確診されている。うち、1名は香港での患者、93人は外地からの輸入症例、1名が分類不能な患者となっている。注意に値するのは、過去10年間の同期と比較すると、2005年～2014年には22名～95名となっているが、今年はこれまでの最高の患者数になっている。

CHPは、これまでずっと近隣及び海外地区のデング熱の最新状況をモニタリングしてきたが、台湾南部のデング熱の活動レベルがハイレベルにある。台湾衛生当局のデータによると、今年夏からこれまでに28,744名の現地患者がでているがうち129名の死因がデング熱と関連していた。ほぼ全て(98.7%)が台南と高雄など台湾南部地区からのものだ。

CHPのスポークスマンは、「台湾南部のデング熱の活動レベルが高水準にあり、市民が当該地区或いはその他東南アジアに行く場合は、防蚊対策をしっかりし、デング熱を予防するように」という。

広東省では、潮州市や中山、仏山、広州、東莞、汕頭、深圳、掲揚、陽江、江門、茂名と雲浮で夫々現地患者が報告されている。本年当地初の患者が発生下敷きは昨年と比べて2ヶ月以上早い。多くの香港人が訪れるアジア地区では、今年これまでにマレーシアでは96,222名のデング熱患者が出ているが、タイでは98,403名、シンガポールは8,431名、日本では245名が報告されている。米州地区では、ブラジルで1,416,179名、メキシコでは139,966名のデング熱患者が出ている。

CHPのスポークスマンは、「デング熱ウィルスには4種類の血清型あり、或る血清型に最初に感染した場合、病状は一般に軽微だが、もしその後その他の血清型に感染すると、何年も経った後でも比較的容易に重症化し、デング出血熱になる。重症デング熱の病態はかなり重篤なものになり、死に至ることもある。適切な治療をしない場合、重症デング熱の死亡率は20%を超える」と説明した。

また、「これまでにデング熱ワクチンはまだ登録されておらず、それ故、香港にいても渡航中でも、絶えず環境衛生に注意し、防蚊と個人の保護措置をすることがデング熱の最も有効な予防方法となるのだ」と補足説明をした。

CHPは渡航者に対し、出発前に現地のデング熱リスクを調べ、以下の予防措置を取るようと呼びかけている：

- * ゆったりした明るい色彩の長袖上着と長ズボンを着用し、皮膚が露出する部分や衣服にはDEETを含む昆虫忌避剤を塗布すること；
- * 戸外にあっては、香りの強い化粧品やスキンケア製品の使用を避け、指示に基づき昆虫忌避剤を何度も使用すること；
- * 少なくとも出発の6週間前には、医師の意見を聞き、予防措置を十分に採り、蚊に刺されぬようにすること；及び
- * 渡航期間中は、もし流行地区の郊外に旅行する場合は、携帯式の蚊帳を持ち、蚊帳にはペルメトリン殺虫剤を使用すること。ペルメトリンは皮膚に直接塗布しないこと。

デング熱の潜伏期は3～14日といろいろだが、通常は4～7日とされる。もし渡航先から香港に戻った後に体調が悪ければ、速やかに病院にゆき、渡航歴について医師に細かく説明をすることが必要だ。

市民は、水が溜まらないようにし、良好な環境衛生を保たねばならない：

- * 一週間に一度は花瓶の溜水を取り替えること；
- * 一週間に一度植木鉢の底の溜水を清掃すること；
- * 水の容器の蓋をしっかりと占めること；
- * エアコン下の底板に水が溜まらないようにすること；
- * 使用済みの缶や瓶をカバーのあるゴミ箱に入れること；及び
- * 食物及びごみの処理をきっちりすること。

もし、病気の蚊（宮本注：「蚊患」を無理やりに訳すところなりますが、蚊が病か否か判らないのでは？）を見つけたら **1823** ホットラインで政府に報告或いは、下記の HP を見て詳細を理解せねばならない：

- * [CHP の Dengue 熱のページ](#)
- * [衛生署 旅游健康サービス Dengue 熱のページ](#)
- * [衛生署 最新渡航情報](#)
- * [衛生防護センター「昆虫忌避剤使用の注意事項」](#)
- * [衛生防護センター Facebook 専用ページ](#)
- * [衛生防護センター Youtube チャンネル](#)
- * [食物環境衛生署の蚊の繁殖防止ガイド](#)

完

2015 年 10 月 30 日（五）

http://www.chp.gov.hk/tc/view_content/41957.html

..... 以下は中国語原文

登革熱個案最新數字

香港衛生署 www.chp.gov.hk 2015-10-30

衛生署衛生防護中心今日（十月三十日）公布登革熱個案最新數字，並再次呼籲市民不論在本地或外遊，時刻注意環境衛生，以及採取防蚊和個人保護措施。

在十月二十三至二十九日期間，衛生防護中心錄得五宗新增確診個案，均為外地傳入，病人曾於潛伏期內逗留在內地（兩宗）、泰國（兩宗）及越南（一宗）。

截至昨日（十月二十九日），今年至今確診共 95 宗登革熱個案，包括一宗本地、93 宗外地傳入及一宗未能分類的個案。值得注意的是，與過去十年同期比較，二零零五至二零一四年同期錄得 22 至 95 宗不等，今年至今錄得的個案數字是最高。

衛生防護中心一直密切監察鄰近和海外地區的登革熱最新情況，而台灣南部的登革熱活躍程度仍處於高水平。根據台灣衛生當局的資料，今年入夏至今錄得共 28 744 宗本地個案，其中 129 宗死亡個案死因與登革熱相關。近乎全部（98.7%）個案均來自台南和高雄等台灣南部地區。

衛生防護中心發言人表示：「由於台灣南部的登革熱活躍程度仍處於高水平，市民前往該處或其他東南亞國家時應做足防蚊措施，預防登革熱。」

在廣東，潮州、中山、佛山、廣州、東莞、汕頭、深圳、揭陽、陽江、江門、茂名和雲浮分別錄得本地個案，今年首宗本地個案發生的時間較去年提前兩個多月。至於亞洲多個港人熱門旅遊地點，今年至今馬來西亞錄得 96 222 宗登革熱個案，泰國 98 403 宗，新加坡 8 431 宗和日本 245 宗。在美洲，巴西錄得 1 416 179 宗登革熱個案，墨西哥 139 966 宗。

衛生防護中心發言人解釋：「登革熱病毒有四種不同的血清型。首次感染某種血清型，病情一般較輕，但若隨後感染其他血清型，無論於多年後，則較易出現重症登革熱，又稱登革出血熱。重症登革熱的病情比較嚴重，可導致死亡。如沒有適當治療，重症登革熱的死亡率可超過 20%。」

發言人補充：「由於至今沒有預防登革熱的疫苗獲註冊，故此，不論在本地或外遊期間，時刻注意環境衛生，以及

採取防蚊和個人保護措施是預防登革熱的最有效方法。」

衛生防護中心呼籲外遊人士，應於出發前了解目的地的登革熱風險，並採取以下預防措施：

- * 穿着寬鬆、淺色的長袖上衣及長褲，並於外露的皮膚及衣服塗上含避蚊胺成分的昆蟲驅避劑；
- * 在戶外，避免使用有香味的化妝品或護膚品，並按指示重複使用昆蟲驅避劑；
- * 出發前最少六星期，應徵詢醫生的意見，並採取額外的預防措施，免被蚊叮；及
- * 外遊期間，如到流行地區的郊外旅行，應帶備便攜式蚊帳，並在蚊帳上使用殺蟲劑氯菊酯。切勿將氯菊酯塗在皮膚上。

登革熱的潛伏期為三至十四日不等，通常為四至七日。任何人在外遊返港後若感到不適，應盡快求醫，並將行程細節告知醫生。

市民亦應防止積水，並保持良好的環境衛生：

- * 每星期為花瓶換水一次；
- * 每星期清理花盆底下的積水；
- * 緊蓋貯水器皿；
- * 確保冷氣機底盤沒有積水；
- * 把用完的罐及瓶放入有蓋的垃圾桶；及
- * 妥善存放食物及處理垃圾。

市民如發現蚊患，應致電熱線 1823 向政府部門報告，亦可參閱以下專題網頁，了解詳情：

- * 衛生防護中心登革熱專頁 (www.chp.gov.hk/tc/view_content/38847.html)；
- * 衛生署旅遊健康服務登革熱專頁 (www.travelhealth.gov.hk/tc_chi/popup/popup_dengue.html)；
- * 衛生署最新旅遊情報 (www.travelhealth.gov.hk/tc_chi/outbreaknews/outbreaknews.html)；
- * 衛生防護中心「使用昆蟲驅避劑的注意事項」(www.chp.gov.hk/tc/view_content/38927.html)；
- * 衛生防護中心 Facebook 專頁 (www.fb.com/CentreforHealthProtection)；
- * 衛生防護中心 YouTube 頻道 (www.youtube.com/c/ChpGovHkChannel)；及
- * 食物環境衛生署防治蚊子滋生指南 (www.fehd.gov.hk/tc_chi/safefood/handbook_prev_mos_breeding.html)。

完

2015年10月30日（星期五）

20151030A デング熱患者最新データ(香港衛生署)